

おきたまの教育

平成30年度置賜教育事務所

学校教育指導の重点

人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり
つなぐ ～いのち、学び、地域～

豊かな心を育む

- 「いのちの教育」の計画的・継続的な実践
- 道徳の授業を要とした道徳教育の充実

魅力にあふれ、 安心・元気な学校をつくる

カリキュラム・マネジメント を推進する

- 育てたい資質・能力の共有
- 学校経営の選択と集中
- 教育内容の質の向上を目指した評価サイクルの構築

教職員の力を高める

- 少人数のよさを生かした教育実践
- 「担任力」と同僚性を育む校内研修の充実

子供の育ちと 学びをつなぐ

- 幼保小及び小中連携の充実
- 家庭・地域との連携・協働の推進

授業を中核に、生きぬく力を育む

考える力を育む授業づくり

① 子供に力を付ける探究型学習の充実

- 主体性を引き出し、深い思考に導くことができる課題の設定
- 自己や他者との対話を通して、考えを広げ深める、協働的な学びの充実
- 思考の変容や自分の成長、学ぶことのよさを実感できる振り返りの確実な実施

② 育てたい資質・能力を意識した単元・授業計画

- 確かな見取りをもとに、子供の姿で具体化した、一貫性のある目標・指導・評価と支援
- 子供の多様な考えを生かす教材研究と、思考を深め、確かなものにするための教師のコーディネート

③ 教師の指導力を高める校内研究の充実

- 子供に力を付けることができたかを語る事後研究会
- 研究の日常化に向けた次の一手の共有

自尊感情を育む集団づくり

① 自己指導能力を育む生徒指導の推進

- 生徒指導の機能を生かした授業の実践
- 主体性を育む児童会・生徒会活動の工夫
- 地域とともに作る体験活動の充実

② いじめの根絶に向けた取組

- 機能する「学校いじめ防止基本方針」にするための評価と改善
- 児童生徒にとっての魅力ある学級づくりの推進（絆づくり、居場所づくり）
- 部活動（クラブ活動等）におけるいじめの未然防止、早期発見、適切な対応の推進

③ 特別活動の充実

- 各活動・学校行事で、付けたい力を明確にした指導計画の作成と見直し
- 望ましい人間関係、自主的、実践的な態度の育成を目指した教育活動の充実

探究型学習とは・・・

「自ら課題を設定し、基礎的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を総合的に活用しながら、主体的・協働的に解決に取り組む学習」

健康でたくましい体づくり

① 健やかな体を育む学校体育の充実

- 運動の楽しさや喜びを実感できる授業の推進
- 学校と家庭・地域が連携した体力づくりの工夫

② 主体的な判断力・実践力を高める健康・安全教育の推進

- 心身の健康を保持増進するため、自らの課題を踏まえ解決を目指す過程の充実
- 自他のいのちを守るための危険予測・回避能力を育む活動の工夫改善
- 学校と家庭・地域が連携した望ましい生活習慣の形成（生活リズム・食習慣）

特別支援教育

一人一人の教育的ニーズに 応じた特別支援教育の推進

① 校内支援体制の充実

- 教育的ニーズの的確な把握と校内体制の機能強化
- 学校段階間及び家庭や関係機関との情報の引継と連携

② 子供の特性に応じた指導・支援の充実

- 個別の教育支援計画を活用した継続的な支援と個別の指導計画に基づいた適切な教育課程の編成
- 通常学級における適切な指導と支援

③ 共生社会の形成に向けた基盤づくりの推進

- インクルーシブ教育システムの考え方を踏まえた交流及び共同学習
- 障がいのある子供一人一人に適切な「合理的配慮」の提供

幼稚園教育

自主性と思いやりを育む 幼稚園教育の推進

① 信頼される幼稚園経営の推進

- 各園の特色を大事にした教育課程の創造
- 開かれた幼稚園づくりの推進

② 自主性と思いやりを育む指導の充実

- 計画的な環境構成の工夫
- 子供の成長を促す教師の見取り

③ 育ちと学びをつなぐ小学校、家庭、地域との連携

- 幼児期の教育と小学校以降の教育の円滑な接続
- 幼保小連携スタートプログラムの活用

平成30年度 「考える力」を育む授業づくり研究会 実施要項

置賜教育事務所

1 ねらい

管内の若手・中堅教員(教科研究員)と置賜教育事務所指導主事が協働しながら「考える力」を育む探究型学習の授業づくりを通して、教科研究員の実践的指導力の向上を図るとともに、その成果の提案を通して、各校における授業改善や校内研究の活性化に資する。

2 方針

- (1) 教科研究員と置賜教育事務所指導主事が、教科毎に教科研究プロジェクトチームを組織し、探究型学習の視点での授業づくりについて研究を進める。
- (2) 今年度の重点を「育てたい資質・能力の育成を目指した教科横断的な視点を大切にした指導」とする。管内(校内)で育てたい資質・能力を全体で共有し、各教科チームでその育成に向けた授業のあり方を研究する。
- (3) 「平成30年度学校教育指導の重点」及び「おきたまの教育」の視点を踏まえながら、授業を通して探究型学習の実践を提案する。
- (4) 研究の成果を「情報おきたま」「各種研修会」等で発信・普及する。

3 研究計画及び日程

回	期 日	会 場	内 容
①	5月23日(水) ※小学校社会部会は 6月14日(木)	置賜総合支庁 西置賜地域振興局	<u>第1回全体研究会</u> ○研究のねらい・年間予定の説明、研究計画の立案 ○管内の実態の分析と、今年度の重点等の確認
② ③	6月～10月	置賜総合支庁 西置賜地域振興局	<u>第1, 2回教科研究会</u> ○重点と探究型学習の視点に基づいた学習指導案等の検討
④	9月～11月	教科研究員所属校 (学習指導研修会 会場校)	<u>第3回教科研究会(兼 学習指導研修会)</u> ○学習指導研修会で重点と探究型学習の視点に基づいた授業の提案と、参会者との意見交換
			授業者 小学校国語 米沢市立塩井小学校 畠田妃佳里 教諭
			小学校社会 高畠町立糠野目小学校 小関健太郎 教諭
			中学校数学 米沢市立第三中学校 大沼 建 教諭
中学校理科 米沢市立第七中学校 和地奈々江 教諭			
⑤	1月23日(水)	置賜総合支庁 西置賜地域振興局	<u>第2回全体研究会</u> ○実践発表・交流、教科指導改善策等の整理

4 実施にあたって

- (1) 各教科(小学校国語、小学校社会、中学校数学、中学校理科)3名の教科研究員を委嘱する。委嘱にあたっては、市町教育委員会と協議をしながら進めていく。
- (2) 学習指導研修会では、教科研究プロジェクトチームで検討した学習指導案に基づいた授業の提案を行う。また、事後研究会の持ち方等についても提案する。
- (3) 本研究に係る教科研究員の旅費は別枠とする。
- (4) 研究を進めるにあたり、以下の資料を活用する。
 - ・『山形県学力等調査問題』(山形県教育委員会)
 - ・『算数・数学スパイス問題シート』(山形県教育委員会)
 - ・『全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例』(国立教育政策研究所 平成21～29年)
 - ・『言語活動の充実に関する指導事例集』(文部科学省 平成23年10月)
 - ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』(国立教育政策研究所 平成23年11月)

平成30年度「『考える力』を育む授業づくり研究会」名簿

※ 敬称略

■小学校国語科チーム

氏名	所属・職名	備考
寫田 妃佳理	米沢市立塩井小学校 教諭	
川村 千穂	小国町立叶水小学校 教諭	
小口 和香	白鷹町立東根小学校 教諭	

■小学校社会科チーム

氏名	所属・職名	備考
中川 陽介	南陽市立梨郷小学校 教諭	
佐藤 祐貴	南陽市立赤湯小学校 教諭	
小関 健太郎	高島町立糠野目小学校 教諭	

■中学校数学科チーム

氏名	所属・職名	備考
大沼 建	米沢市立第三中学校 教諭	
石黒 修平	米沢市立第五中学校 教諭	
淀野 千賀子	南陽市立赤湯中学校 教諭	

■中学校理科チーム

氏名	所属・職名	備考
和地 奈々江	米沢市立第七中学校 教諭	
室岡 貴翔	長井市立長井北中学校 教諭	
石黒 良幸	南陽市立宮内中学校 教諭	

■置賜教育事務所

氏名	職名	担当 (◎：教科の主担当)
設楽由加利	副所長兼指導課長	
山口 玲子	主任指導主事	中学校数学
多勢千鶴子	指導主事	中学校数学 (◎)
渡部美千恵	指導主事	小学校国語 (◎)
後藤 潤一	指導主事	本研究会主担当、小学校国語
丸川 利英	指導主事	中学校理科
土田 知良	指導主事	小学校社会
地主 忠亮	指導主事	中学校理科 (◎)
平賀 正和	指導主事	小学校社会 (◎)

平成30年度「学習指導研修会」実施要項

置賜教育事務所

1 ねらい

置賜管内から選出された教科研究員による研究授業の参観を通して、学習指導要領の趣旨に基づく「『考える力』を育む授業づくり」について研修を行い、探究型学習の一層の推進を図る。

2 平成30年度 研究の重点

- 今年度の重点を「育てたい資質・能力の育成を目指した教科横断的な視点を大切にしたい授業づくり」とする。
- 教科研究員の声から見えてきた置賜の児童生徒の実態を基に、置賜全体で育てたい資質・能力を明らかにする。それを「全体テーマ」として共有し、各教科チームでテーマに掲げた資質・能力の育成に向けた授業のあり方を研究する。

3 平成30年度 研究全体テーマ

課題解決の過程において、
つなげて考え、根拠を明確にして表現する力 の育成
※つなげて考える…比較する、関連付ける、関係付ける

4 期日及び会場、授業者等

期日・会場	教科及び単元名等	授業者
9月18日(火) 米沢市立第七中学校	中学校理科 第2学年 「天気とその変化」	米沢市立第七中学校 和地 奈々江 教諭
10月9日(火) 高畠町立糠野目小学校	小学校社会科 第3学年 「工場の仕事」	高畠町立糠野目小学校 小関 健太郎 教諭
11月7日(水) 米沢市立第三中学校	中学校数学科 第2学年 「図形の調べ方」	米沢市立第三中学校 大沼 建 教諭
11月15日(木) 米沢市立塩井小学校	小学校国語科 第5学年 説得力のある構成を考え、 すいせんするスピーチをしよう 「すいせんします」	米沢市立塩井小学校 寫田 妃佳里 教諭

5 参加について

- (1) 各小・中学校から1名以上、参加願います。(上記4つの会場より何校でも選択可能です。)
※今年度は、「育てたい資質・能力の育成を目指した教科横断的な指導」を意識して、上記共通テーマのもと研究を進めております。校種を越えた参加や担当教科の枠を越えた参加も考慮下さい。
- (2) 小学校教育マイスター及び中学校教育マイスターは、必ず参加願います。
(退職教員マイスターは参加の必要はありません)

6 研修内容

- (1) 置賜教育事務所及び教科研究プロジェクトチーム(※)による提案及び協議
 ① 全体テーマを受けた授業づくり説明 ② 研究授業の参観 ③ 研究協議
 ④ 担当指導主事による助言・まとめ
- (2) 研究協議では、教科研究プロジェクトチームによる提案に基づき、各校の校内研究推進状況等について、積極的に交流願います。

7 日程 ※会場によって、開始時刻等が違いますので、留意願います。

- (1) 米沢市立第七中学校【授業；理科】会場

12:55	13:15	13:40	14:30	16:30	16:40
受付	開会行事	授業参観(50分)	研究協議(助言・まとめ)	閉会行事	

- (2) 高畠町立糠野目小学校【授業；社会】会場

13:05	13:25	13:50	14:35	16:35	16:45
受付	開会行事	授業参観(45分)	研究協議(助言・まとめ)	閉会行事	

- (3) 米沢市立第三中学校【授業；数学】会場

12:50	13:10	13:35	14:25	16:25	16:35
受付	開会行事	授業参観(50分)	研究協議(助言・まとめ)	閉会行事	

- (4) 米沢市立塩井小学校【授業；国語】会場

12:50	13:10	13:35	14:20	16:20	16:30
受付	開会行事	授業参観(45分)	研究協議(助言・まとめ)	閉会行事	

8 参加申込

- (1) 学校は、参加者等について別紙様式に記入のうえ、平成30年8月28日(火)まで当該市町教育委員会あて報告願います。(メール・ファックス可)
- (2) 市町教育委員会は、別紙様式をそのまま、平成30年9月3日(月)まで置賜教育事務所指導課長あて提出願います。(メール・ファックス可)

9 その他

- (1) 参加者の旅費は、学校旅費で対応願います。
- (2) 教育マイスターの参加については、旅費は別枠となります。

(※) 「教科研究プロジェクトチーム」とは、

置賜管内教員(教科研究員)と置賜教育事務所指導主事が協働しながら、学習指導要領の趣旨に基づく『「考える力」を育む授業づくり』について研究を進めているグループです。

	小学校国語科	小学校社会科	中学校数学科	中学校理科
教科研究員	米沢市立塩井小学校 畷田妃佳里 教諭	高畠町立糠野目小学校 小関健太郎 教諭	米沢市立第三中学校 大沼 建 教諭	米沢市立第七中学校 和地奈々江 教諭
	小国町立叶水小学校 川村 千穂 教諭	南陽市立梨郷小学校 中川 陽介 教諭	南陽市立赤湯中学校 淀野千賀子 教諭	長井市立長井北中学校 室岡 貴翔 教諭
	白鷹町立東根小学校 小口 和香 教諭	南陽市立赤湯小学校 佐藤 祐貴 教諭	米沢市立第五中学校 石黒 修平 教諭	南陽市立宮内中学校 石黒 良幸 教諭

「つなげて考え、根拠を明確にして表現する力」を育成する

学習指導研修会
の提案から

今年度の置賜教育事務所「『考える力』を育む授業づくり研究会」は、12名の教科研究員の先生方と「置賜で育成したい資質・能力」について協議し、全体テーマを設定することから研究をスタートしました。そして、「課題解決の過程において、つなげて考え、根拠を明確にして表現する力の育成」をテーマに掲げ、各教科チームでその資質・能力の育成を目指して研究を進めてきました。

研究の提案の場として、9月～11月に小学校国語、小学校社会、中学校数学、中学校理科の計4回の「学習指導研修会」を実施しました。

研修会に参加された先生方の声をもとに、提案授業の成果をお知らせします。

中学校理科（9月18日） 2学年 天気とその変化 米沢市立第七中学校 授業者 和地 奈々江 教諭



【本時の目標】 2日間の天気図をもとに分析した天気の特徴や移り変わりをもとに、翌日（3日目）の天気を予想し、実生活に役立つアドバイスを加えて考えることができる。

《参加された先生方の声》

- 日々の天気図の分析には手間がかかったと思いますが、新鮮な情報をもとに身近な天気について考えることは、興味関心を高めるだけでなく実感を伴う理解につながると感じました。
- 発表原稿を考えたり、教師自らお手本としてアナウンサーのように気象予報してみたりと、わくわくする場面が仕組まれていました。日常と科学が結びついた授業でした。
- 書き込みながら考え交流できる教材（天気図）が工夫されていました。
- 「既習事項の活用場面」を意図的に授業に設定することで、子供の意欲を高め、付けたい力をつけるのにとっても大切だと感じました。
- 導入のVTR提示の際、「何のために見るか」を確認すると、ポイントを意識して視聴でき、自分の天気予報にも生かされたように思います。



小学校社会（10月9日） 3学年 工場の仕事 高畠町立糠野目小学校 授業者 小関 健太郎 教諭

【本時の目標】 地域の工場を見学するにあたり、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、工場が行っている工夫について、学習問題をとらえることができる。

《参加された先生方の声》

- 3年生でも、話し合いながら付箋紙に書いたことをまとめ、質問事項を絞ることができていました。
- 資料のもつ社会的な意味を子供達から引き出すことで、単元を貫く課題を設定できることを学びました。
- 工場の写真やドレッシング（実物）を提示することで、実生活と学びとをつなげることができていました。前単元の「スーパーマーケット」の学習とも関連付けることができていました。
- 「実社会と子供達の学びをつなぐ」という大切な視点が管内の先生方で意図的に共有され、学びを深めるという研究そのものに学ぶことができました。
- 根拠を話す場をさらに充実させることにより、実生活との関わりがさらに出てきたり、話し合いの深まりにつながったりすると感じました。





中学校数学（11月7日） 2学年 図形の調べ方
米沢市立第三中学校 授業者 大沼 建 教諭

【本時の目標】 与えられた式を読み取ることを通して、星形五角形の先端にできる角の和が180度になる理由を既習事項を根拠に明確にすることができる。

《参加された先生方の声》

- 「式を読み取る」ことは、研究テーマの「つなげて考える」ための有効な手段であると感じました。立式の力や意欲向上にも効果があると思います。
- プリントの紙の色を変えることが、子供のやる気につながっていると同時に、学び合う場面では、子供にとってはグルーピングの目印になり、教師にとっては見取りの際の目印になっていました。
- 式を読み取り、「(既習事項である) 使う性質はどれか」を考えることが、既習事項の復習にもなるのだと感じました。
- 参観を通して“目の前の子供につけたい力”は何なのか、改めて考える必要があると感じました。
- 小中高のカリキュラムのつながりを意識して、内容を精選することで授業にゆとりが生まれているように感じています。生まれた「ゆとり」を子供が生き生きと考える時間に使うようにしたいと思います。



小学校国語（11月15日）5学年 説得力のある構成を考え、すいせんするスピーチをしよう
米沢市立塩井小学校 授業者 鳶田 妃佳里 教諭

【本時の目標】 スピーチメモの構成の要素と内容について話し合う活動を通して、塩井小学校の魅力について聞き手が納得するようなスピーチを考えることができる。

《参加された先生方の声》

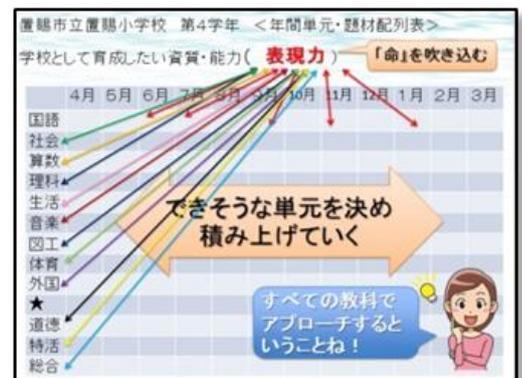
- 付けたい力の絞り込みがしっかり子供に生きていました。自分の授業でも意識していきたいと思います。
- 国語において、この活動を通してどんな力をつけたいのかをしっかりとおさえていく必要があると改めて感じました。そのための要素は何なのかを常に考えていきたいです。
- 育てたい姿に対しての積み重ねが素晴らしいと思いました。子供の話し合う姿に担任の先生の温かい心が感じられました。
- 友達のスピーチを本気で良くしたいという姿勢が非常に素晴らしいと思いました。子供に何を学ばせたいか、どんな力を付けたいかを明確に持ち、単元・授業を構成することの必要性・重要性を学びました。
- 仲間のスピーチや考えがよりよいものになるようにと、自分事として考え、仲間の力になろうとすることが、本当の主体性なのだと思います。



4つの授業とも大変提案性に富み、探究型学習の授業づくりについて貴重な研修の機会となりました。参加者の先生方による活発な研究協議も行われ、4回すべての回とも学びの多い充実した研修会となりました。

研修の最後に教育事務所より、本研究の全体テーマの設定と関連付けて、「教科横断的な視点を大切にしたカリキュラム・マネジメントによる、学校として育成したい資質・能力の育成」について話をさせていただきました。

ご参加いただいた先生方、教科研究員の先生方、また会場を提供して下さった会場校の先生方に感謝申し上げます。



全ての教科を通して、「育成したい資質・能力」を育むために

No.98でもお知らせしましたが、置賜教育事務所「『考える力』を育む授業づくり研究会」では、4教科12名の教科研究員の先生方とともに、「置賜で育成したい資質・能力」について協議し、全ての教科で「課題解決の過程において、つなげて考え、根拠を明確にして表現する力」を育成していくことを目指し、各教科チームで研究を進めてきました。

2月に行われた全体会において、教科研究員が上記の資質・能力の育成を目指して日々取り組んできたことについて共有しました。各学校において、全ての教科・領域を通して「育成したい資質・能力」を育てていくためのヒントとして、ご活用ください。

教科研究員の先生方の取り組みから学ぶ

「課題解決の過程において、つなげて考え、根拠を明確にして表現する力」を育成していくために、教科横断的な視点を大切にしたい取り組みや工夫



【小学校の教科研究員の取り組み】 全ての教科を受け持つ強みを生かして…

- ・ 普段の授業で、子供達が根拠をもとに対話することができるような授業を意図的に行ってきた。
- ・ 「つなげて考える」ことを重視した。そのために、前学年や前時の学びを意識した導入を心がけ、子供の学びの連続性を大切に、興味・関心が高まるよう工夫した。
- ・ 社会では…算数では…音楽では…学活では… と、その教科の特性に合わせながら「根拠をもとに表現する」取り組みを意識してきた。
- ・ 表現力を高めるには、双方向に伝え合うことが大切である。そのために「相手を意識して」発表すること・聞くことを大切にしてきた。→ 聞き手を育てることが話し手を育てることもつながる。
- ・ 自分の考えをより適切に表現できるように、子供達の語彙を増やすことを大切に考えてきた。
- ・ 教師も子供も、学ばせたいこと（学びたいこと）と学習活動とが一致するように単元をデザインすることが、「つなげて考える力」につながる。

教科の専門家として、また、複数クラスで実践できる強みを生かして…

【中学校の教科研究員の取り組み】

- ・ 「つなげて考える」「根拠を明確に表現する」ためには、前時までの学習を理解していることや、学びの履歴がノートに残っていることが大事である。
→それがはっきり残っていることで、自信を持って取り組むことができる。
- ・ 学んだことを、日常場面や生活、身の回りの物や現象等につなぐことを大切にしてきた。
→子供の「そうか！そういうことだったんだ！」の納得・理解を大切に。
- ・ 子供達自らが考え表現していくように、個々の子供の考えを引き出せるような視点の与え方を工夫してきた。
- ・ 課題設定を「根拠を明らかにする」としていくことで、根拠となる図形の性質の学び直しの機会にすることができた。学び合う場面での「お互いの考えの根拠を大事にする交流」にもつながった。
→式に使われている数値や記号、演算に着目し、それらと図・既習事項の性質をつなぎながら根拠を明らかにしていく思考過程は、「数学的な見方・考え方」の伸長を図る上でも有効であった。



<2/2 1 県探究型推進協議会における山形大学 学術研究院 野口 徹 教授の話より>

- ◎カリキュラム・マネジメントの充実のためには「ア 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握すること(総則小P39中P40)」がスタートとなる。まず、子供の姿をとらえ、学びの履歴を知ることが大事。
- ◎「教科横断的な視点を大事にしたカリキュラム・マネジメント」は、教科横断的な視点に立って「資質・能力」を育成するということである。単元配列表を作成することありきではない。

授業づくりで大切にしたいポイント

各教科チームでまとめた「授業づくりのポイント」です。それぞれの教科の授業で大切にしたいポイントが詰まっておりますので、今後の授業づくりの参考にしてください。

小学校 国語

教科研究員 鳶田妃佳里（米沢市立塩井小学校）
川村 千穂（小国町立叶水小学校）
小口 和香（白鷹町立東根小学校）

- 付けたい力を絞り込み、子供自身が「何を学んだのか」を自覚できるようにすることで、教師も子供も言葉の力の高まりを実感できるようにする。
- 「何を伝えたいのか」「誰に伝えるのか」という目的意識・相手意識を持つことで、根拠を明確にして表現することに必然性を持たせる。
- 小集団交流で言葉の意味や働き、使い方を文脈に沿って捉え直したり、振り返りでさらに問い直したりすることで、言葉を通して考える力を付けていく。



小学校 社会

教科研究員 中川 陽介（南陽市立梨郷小学校）
佐藤 祐貴（南陽市立赤湯小学校）
小関健太郎（高畠町立糠野目小学校）

- 資料提示の工夫により実生活と学びをつなぎ、子供が単元を通し自分事として学習を進めることができるようにする。
- 社会的事象への子供たちの気付きや疑問をもとに、協働的に課題をつくったり、追究したりする経験を重視し、課題解決のためのスキルも身に付くよう意識する。
- 子供が社会的事象同士をつなげて考えること（比較、分類、統合、関連付け等）ができるよう意図し、具体的な根拠とともに自分の考えを表現し合う場を設ける。



中学校 数学

教科研究員 大沼 建（米沢市立第三中学校）
石黒 修平（米沢市立第五中学校）
淀野千賀子（南陽市立赤湯中学校）

- 既存の問題を「育てたい資質・能力」という視点で捉え直し、課題設定及び学習過程を工夫する。
- 図・式・グラフなどを使って「数学的に表現する活動」と図・式・グラフなどで「数学的に表現されたものを読み取る活動」の双方を複数の単元でバランスよく取り入れることで数学的な表現力の育成を目指す。
- 「根拠を明確にして説明する」「根拠を問い直す」など根拠を大事にした学習を構想し、繰り返していくことで、根拠となる基礎的・基本的な知識・技能の確かな理解と定着につなげる。



中学校 理科

教科研究員 和地奈々江（米沢市立第七中学校）
室岡 貴翔（長井市立長井北中学校）
石黒 良幸（南陽市立宮内中学校）

- 日常生活と理科の学習内容の関連付けを図り、身の回りの出来事について科学的な視点や考えを持たせることで、興味関心を高める。
- 既習事項や生活経験をもとにした予想を立て、観察・実験を行い、科学的な根拠を示した考察を行う授業構成を大切にする。
- 図に表す活動を取り入れたり、キーワードを提示したりして、理科の用語を適切に用いて、自分の考えを表現できるようにする。



今年度の取組みの成果を「実践記録集」としてまとめ、置賜教育事務所HP【<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/706003/>】にアップします。
教科研究員の先生方の実践（指導案等）も掲載しますので、ぜひご覧ください！